

## 2021 年 10 月 11 日（月）～12 日（火） 茶臼岳(1915m) & 三斗小屋温泉三昧

紅葉的那須岳に行きました。コロナ感染予防の為に発令されていた緊急事態宣言が解除されたこともあり、久しぶりに 9 人の大パーティとなりました。

当初の計画では、クマさん会で初めての旧会津街道を歩いて三斗小屋温泉を目指すコースを予定していました。しかし、このコースには時々熊が出没するとの情報もありました。9 人のクマさん会メンバーが熊に襲われてケガなどをしたら会の恥だとも思い、どうしたものかと思案どころでした。

＊「山と地図」にも、「クマ出没多く注意」との記載

ところが、決行初日の天気は良いにもかかわらず翌日は空模様が怪しくなっていくとの予報が出ましたので、結局、初日に紅葉が楽しめる姥ヶ平に直接向うコースを選択することにしました。黒磯駅からジャンボタクシーで沼原湿原（表記は、沼ッ原湿原とも書くようです）に行き、湿原の散策の後に姥ヶ平へ直行です。そんな訳で、旧会津街道歩きはお預けとなりました。

紅葉狩りとともに、この登山の楽しみは山小屋での温泉三昧。煙草屋旅館の露天風呂にも期待がふくらみました。今回の参加者は、熊本、堀、安部、池戸、高橋（文）、布目、岡部、中島、そして吉松の 9 人です。

レポート：吉松



初日：10月11日月曜日 晴れ 沼原湿原散策、姥ヶ平紅葉狩り、三斗小屋温泉煙草屋での温泉三昧

集合時刻は、東北本線黒磯駅改札口に 8 時 35 分

安部さんは全行程を在来線で、他の 8 人は新幹線「なすの 251 号」から在来線に乗り継いで黒磯駅に向った。





安部さんは一足先に黒磯駅に着いて、我々を待っていた。

予約していた黒磯観光タクシーの9人乗りジャンボタクシーに乗り込み、沼原湿原に向った。



随分話し好きの運転手だった。

「山歩きは大切だ。運転ばかりしてて足腰が弱って困る。」

「この辺のクマは小さいけれども、市街地辺りにも出没する。」

「この街はブリジストンの企業城下町である。」

「煙草屋のオーナーとは学校が一緒だった。」云々



9時20分

沼原湿原駐車場に到着

恒例により、岡部さんの指導で柔軟体操



沼原湿原への下り口で集合写真

「熊出没注意」の看板が出ていた。



沼原湿原は標高1230m、駐車場から15分ほど下った辺りに広がっている。

昭和44年から湿原の南側に発電用の上池（沼ッ原池）が作られたため、湿原は狭くなってしまったようだ。植物は230種ほどが確認されていて、ほ乳類ではツキノワグマ、ニホンザルなどが出没するそうだ。



駐車場から湿原に向けて暫く下る。

この辺りから既に足下は湿っていて、スリッパ注意だ。



湿原近くに東屋（休憩舎）があり、そこからは木道が整備されていて湿原を周回出来るようになっている。

＊堀さんは東屋にザックを置いて散策



湿原は草も樹木もすっかり色づいていた。

20分ほどのんびりと散策して、湿原の自然を楽しんだ。



10時、小休止

左に向えば、当初計画の旧会津街道コースとなる。熊との遭遇も覚悟しなければならない。我々は右にコースをとって、東屋に戻った。(↓ 又々、クマに注意の看板)



東屋で堀さんのザックをピックアップして、沼原分岐地点に向った。

暫くは、登りの少ない登山道

真っ赤に紅葉した木があった。







沼原分岐地点で小休止

布目さん持参の2種類のリンゴを美味しく頂いた。



次の目標は日の出平登山口だ。登山道の木々にも紅葉が目立ってきた。



10時50分、日の出平登山口

右に行けば日の出平(1786m)経由で姥ヶ平に出られるが、大分遠回りになってしまう。

我々は、直進して姥ヶ平下に向う。





姥ヶ平下へ続く登山道は、今日のコースの中では最も急登だ。  
息は上がってくるし、9人の列もかなり延びてしまった。



この急登ですっかり参ってしまったのは、誰よりも布目さん  
徐々に気温が上がって汗が噴き出し、そのため体力を消耗したに違いない。シャリバテも重なったようだ。



11時15分頃

木にもたれかかり、苦しそうに息を整える  
布目さん（写真右下）

「もう、私の登山はこれが最後かも知れない！」などと、弱気の言葉まで飛び出した。



11時50分

遅れた布目さんと吉松は、休憩していた先行組に追いついた。

布目さんが死にそうな目に遭っているというのに、彼らは楽しそうになにやらモグモグと美味しそうなものを食べていた。



我々2人にも恵んでくれた。

急登も一段落して、お腹に果物を入れた布目さんはすっかり生気を取り戻したようだ。

布目さんの話は、未だ続く・・・

エネルギーを補給した布目さんの体力回復はめざましい。まして急登が終わってしまえば、怖い物なしだ。ある男性（確か、安部さんか堀さんではなかったか？）の後ろについて、「早く行って！！」と煽っている始末だ。  
＊ついさっきまで、死にそうな顔をしていたくせに！！ 心配して損をした！・・・（吉松の独り言）





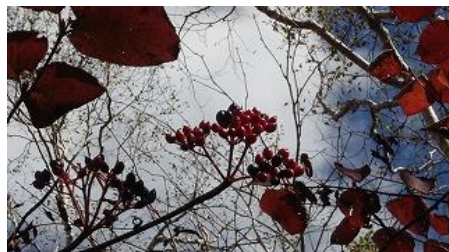
12時

今度は9人がまとまって姥ヶ平下へ向った。



道も比較的平坦で歩きやすい。

日の出平登山口から姥ヶ平下までの登山道でも、素晴らしい紅葉が楽しめた。





今回は、登山道に草花はあまり見られなかった。

密かに咲いていた草花や実などを紹介



12時10分過ぎ

茶臼岳の荒々しい姿が見えてきた。

那須岳の主峰 茶臼岳（1915m）は、今なお噴煙を上げている活火山である。







12時20分

姥ヶ平下を通過



道が平坦になってきて・・・



12時40分過ぎ、姥ヶ平に到着

ん〜ん、紅葉の真っ盛りは一寸過ぎて仕舞ったか、残念！  
それでも見事だった紅葉の面影は充分残っていた。





一つテーブルに集まって昼食

ここまで持ってきて頂いた総菜や日本酒が、たまらなく美味しかった。



腹一杯になったところで、茶臼岳をバックに集合写真

明日は雨模様で、山頂も霧に隠れてしまうかと思うと些か残念



昼食をとり鋭気を養って、これから目指すは三斗小屋温泉だ。来た道を姥ヶ平下まで戻ることにした。



途中でひょうたん池に立ち寄り







木道の先にひょうたん池がある。

\*中島さんが、ひょうたん池で撮影した自慢の写真(↓)。逆さ茶臼岳がお見事！！



姥ヶ平下に戻ったら右手に折れて、三斗小屋温泉に向う。

多少のアップダウンはあるが、大したことは無い。







T字路にぶつかって、ここを左に20分ほど歩けば目指していた三斗小屋温泉だ。

三斗小屋温泉の歴史を書いた看板が出ていた。

この温泉は1142年（康治元年）に発見。江戸時代には旅人や、那須の山岳信仰の行者などで賑わったそう。明治初めには旅館が5軒もあったとのこと。



15時過ぎ、三斗小屋温泉に着いた。

現在は、大黒屋と煙草屋の2軒の旅館だけが残っている。



我々は、露天温泉のある煙草屋に宿をとることにした。



早速宿泊手続き

1人10,000円也

時節柄検温をして、宿帳に記帳  
各自インナーシート持参、持ってこなかった人はシートを200円で借用

我々の部屋は2階の3室が準備されていた。定員の半分くらいの宿泊者数か？



早速温泉で汗を流すことにした。

男女別々の時間制になっている露天風呂には、タイミングが悪く男性陣は入ることが出来ず、内風呂で我慢。石鹸こそ使用出来ないが、良い湯加減の温泉に手足を伸ばして疲れを癒やした。

内風呂も露天風呂も時間によっては混浴になる。

何しろ、江戸時代から続く温泉宿だ。混浴の歴史も今に残ってる。



自然の中にある煙草屋の露天風呂

一風呂浴びて皆集まったところで、冷えた缶ビールで乾杯



ところで、我らが熊本さんは今年9月9日に誕生日を迎えて傘寿に！！

コロナ感染防止の緊急事態宣言下にあって、クマさん会として何も誕生日祝いが出来なかった。

久しぶりに9人の会員が集まった今回を好機として、サプライズの誕生日祝いをすることにした。



ご本人には知らせず、  
密かに赤ワイン、お祝いカード、ささやかなプレゼントを準備

8人で少々調子外れのバースデイソングを唄って、  
熊本さんの傘寿を寿いだ。





夕食が準備出来ると、太鼓の音で知らせてくれる。

銘々膳で出るところは、やはり旅館らしい。

食堂に集まってきた登山客は30数名ほどだから、満員時の半分ほどだった。人数制限もコロナ対策の一環か？



ご飯は、新米を使用と説明があった。  
なるほど、美味しかった。



部屋に戻ってもうひと飲み



飲む人は飲み、寝たい人は早くも寝る体制  
に入っていた。



最も鮮やかなタイミングこそ逃しましたが、姥ヶ平の紅葉は充分堪能しました。

登山道の紅葉も中々捨てがたいものがあり、楽しみながら登ることが出来ました。

温泉に入り、コロナを気にせず、大人数でワイワイとお酒を飲み交わす楽しみも久しぶりでした。

明日は雨模様ようですが、小降りであることを願いつつ、布団に潜り込みました。